

高崎市文化財調査報告書第392集

# 矢原塚越遺跡

－地域密着型特別養護老人ホーム・介護老人保健施設増築工事  
に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2017

株式会社シン技術コンサル  
高崎市教育委員会



## 例　　言

1. 本書は地域密着型特別養護老人ホーム・介護老人保健施設増築工事に伴い実施された、「矢原塚越遺跡」(高崎市遺跡番号 698) の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市箕郷町大字矢原字塚越 13 番 1、15 番 3 である。
3. 発掘調査は、平成 29 年 3 月 24 日から平成 29 年 4 月 5 日まで実施した。
4. 発掘調査、および整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言および監督のもと、社会福祉法人清光会から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが実施した。
5. 調査体制は以下の通りである。

高崎市教育委員会 矢島 浩

株式会社シン技術コンサル 小林一弘 (調査担当)、荒井 洋 (測量担当)

6. 本書の編集は、福嶋正史・須藤恭子 (株式会社シン技術コンサル) が行った。執筆、および遺物の写真撮影は福嶋が行った。

7. 本調査における図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管している。

8. 発掘調査参加者・整理作業参加者については、以下の通りである。(敬称略・五十音順)

### <発掘作業参加者>

青山真佐子 阿部保男 石崎邦夫 大村美枝子 高橋勇太 成澤 剛 野村高久 橋本芳男  
宮田高明

### <整理作業参加者>

荒井 洋 池田敏雄 河手美綾子 佐藤久美子 中里洋子

9. 発掘調査の実施にあたっては社会福祉法人清光会に、また、報告書作成に関して株式会社 CEL ならびに梶原 勝氏に多大な御協力を賜りました。記して感謝の意を表します。

## 凡　　例

1. 本書掲載の第 1 図は国土地理院発行 1/50,000 地形図『榛名山』、第 2 図は高崎市土地計画基本図 1/2,500、第 4 図は国土地理院発行 1/25,000 地形図『下室田』を使用した。
2. 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については世界測地系に基づく平面直角座標第 IX 系を使用した。
3. 土層および遺物の色調は『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 36 版)による。
4. 本書において、検出された溝状遺構の略号を「SD」とし、図中では略号を使用した。
5. 本文・土層注記で表記されるテフラ名を以下に記す。

As-A = 浅間 A 軽石 1783 (天明三) 年降下 As-B = 浅間 B 軽石 1108 (天仁元) 年降下

As-C = 浅間 C 軽石 4 世紀初頭頃降下

As-YP = 浅間板鼻黄色軽石 15,000 ~ 16,500 年前降下

Hr-FA = 榛名二ツ岳火山灰 6 世紀初頭降下

6. 遺物番号は、遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版ともに統一してある。

7. 遺物実測図の縮尺は 1/3 とし、図中には縮尺を示した。また、遺物写真的縮尺は 2/3 とした。

8. 土器実測図において、口縁部の残存が 1/2 未満の場合は断面図側の口縁部線を中心線から離した。

## 目 次

例 言	
凡 例	
目 次	
第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 調査の方法と経過	2
第Ⅲ章 遺跡の立地と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第Ⅳ章 基本層序	6
第Ⅴ章 検出された遺構と遺物	9
第1節 溝状遺構	9
第2節 遺構外出土遺物	12
第Ⅵ章 まとめ	14
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 矢原塚越遺跡位置図	1	第6図 調査区全体図	7
第2図 調査区位置図	2	第7図 SD001 平面図	10
第3図 周辺の地形	3	第8図 SD001 断面図	11
第4図 周辺の遺跡	4	第9図 SD001 出土遺物	12
第5図 基本土層柱状図	6	第10図 遺構外出土遺物	12

## 表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	5	第2表 出土遺物観察表	13
-------------	---	-------------	----

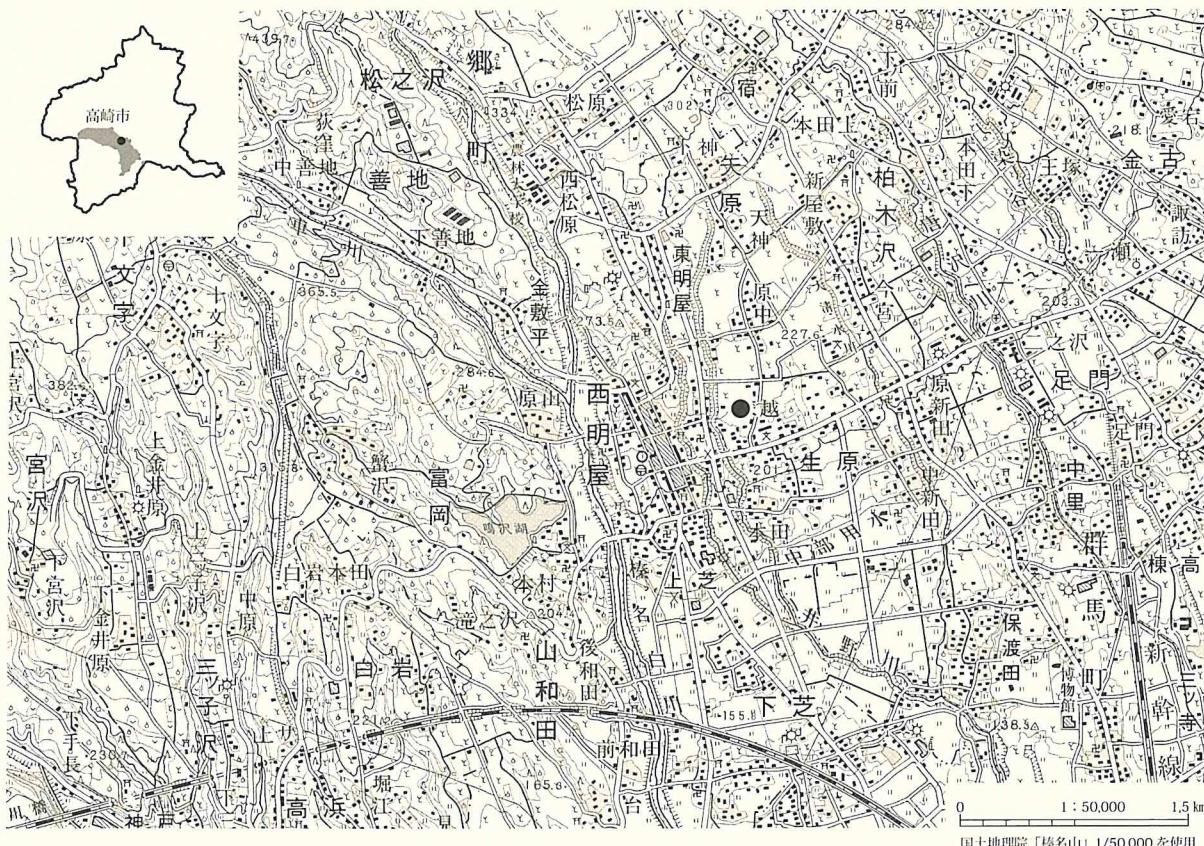
## 写真目次

PL.1 遺跡遠景（南東から）、調査区全景（左が北西）	SD001 土層断面 B-B'（南東から）、SD001 土層断面 C-C'（南東から）、基本土層1（東から）、基本土層2（西から）、調査風景
PL.2 調査区完掘全景（北西から）、SD001 全景（南東から）、SD001 北半（南東から）、	PL.3 SD001 出土遺物、遺構外出土遺物

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯

平成 28 年 12 月、社会福祉法人清光会から、高崎市箕郷町大字矢原において計画されている地域密着型特別養護老人ホーム、および介護老人保健施設増築工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は同町大字矢原字塚越 13 番 1 外に位置し、これは周知の埋蔵文化財包蔵地である塚越遺跡に隣接するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 12 月 14 日、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出された。これを受けて平成 29 年 1 月 16 日に試掘（確認）調査を実施した結果、建物増築予定地内から比較的大規模な溝状遺構を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。同年 2 月 12 日に文化財保護法に基づく届出が提出された。なお遺跡名については隣接する遺跡範囲を拡大し、小字名を附記して「矢原塚越遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に準じることとし、平成 29 年 3 月 14 日に社会福祉法人清光会・株式会社シン技術コンサル北関東支店・市教委での三者協定を締結した。翌 3 月 15 日には社会福祉法人清光会と民間調査機関株式会社シン技術コンサル北関東支店との間で発掘調査に関する契約を締結した。調査の実施にあたって市教委が指導・監督することとなった。



第 1 図 矢原塚越遺跡位置図

## 第Ⅱ章 調査の方法と経過

矢原塚越遺跡における発掘調査は、建物増築予定地である約 193m<sup>2</sup>を対象に平成 29 年 3 月 24 日から 4 月 5 日まで実施した。

調査は、試掘調査で検出された溝状遺構（SD001）の範囲に限って行うこととし、0.25m<sup>3</sup>のバックホウを使用して試掘調査で確認された溝状遺構の全体を検出しつつ表土、および盛土の除去を行った。その際、並行して溝状遺構の一部において覆土上部の掘削も行っている。表土除去後の遺構検出作業、および遺構覆土の掘削はジョレン・スコップ・移植ゴテ等の道具を用いて人力で行った。

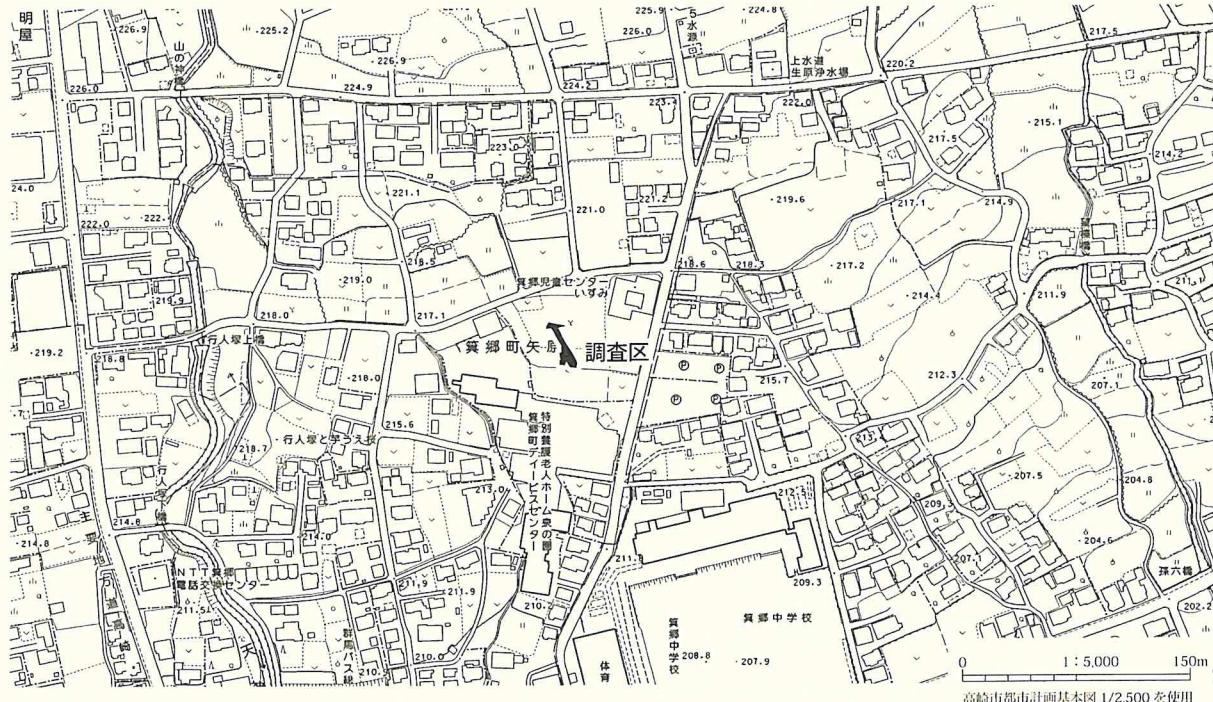
測量は、平面図・断面図ともにトータルステーションを用い、写真撮影には 35mm カラーリバーサルフィルム・同モノクロネガフィルム・デジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 6D：2,000 万画素）を使用した。また、調査完了時にデジタルカメラ（FC330：1,200 万画素）を搭載した UAV（Unmanned Aerial Vehicle：無人航空機）による空中写真撮影を行った。なお、今回の調査では任意グリッドは設定しなかった。

調査の経過は以下に掲げる。

平成 29 年

- 3 月 24 日 基準点測量。
- 3 月 27 日 機材搬入。
- 3 月 28 日 調査区周囲にフェンス設置。表土除去開始。
- 3 月 29 日 表土除去終了。遺構確認と精査。SD001 覆土掘削開始。
- 3 月 30 日～4 月 3 日 SD001 調査。基本土層用トレーナー掘削。
- 4 月 4 日 掘削作業終了。児童センター向け遺跡説明。
- 4 月 5 日 空中写真撮影実施。高崎市教育委員会による調査状況検査。

調査終了。機材搬出、およびフェンス撤去。



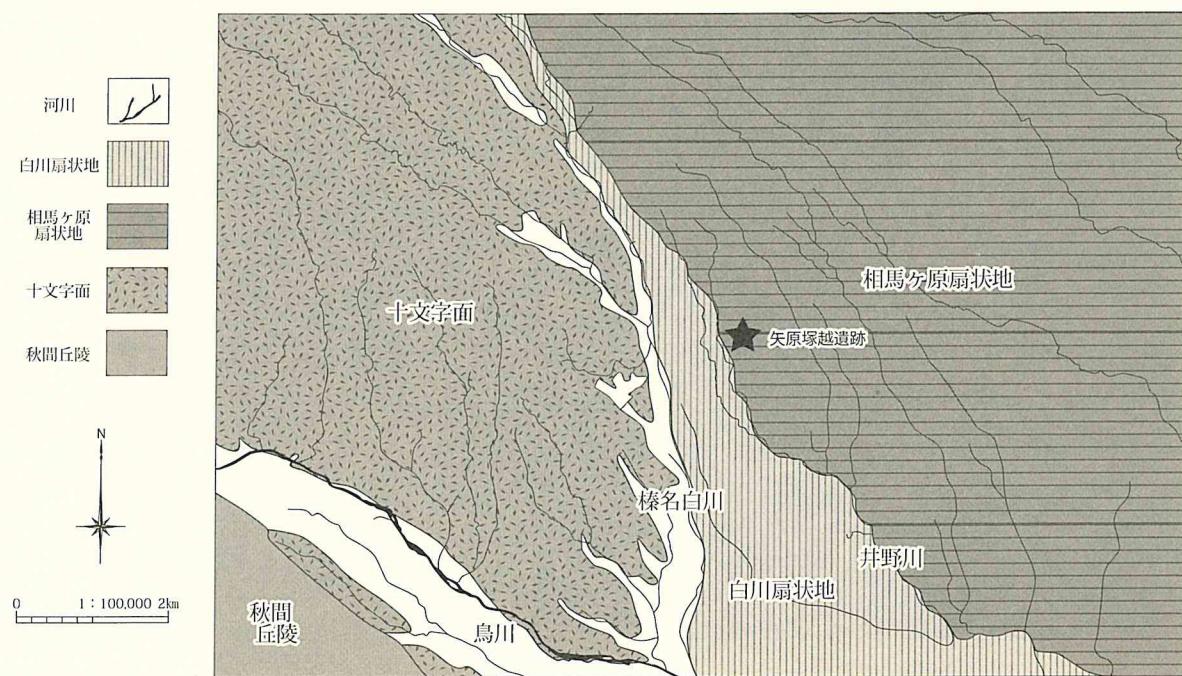
第 2 図 調査区位置図

## 第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

高崎市は、榛名山や妙義山をはじめとする群馬県西部の山々を背後に、関東平野の北西端に位置する。その中にあって、遺跡の所在する箕郷町地区は榛名山の南東麓を占め、地区中央には井野川が、西部の山地沿いには榛名白川がいずれも南東流する。この井野川付近を境界として、地区の西半は約4万年前の榛名山噴火に伴って形成された古期扇状地（十文字面）、東半は約1万7千年前の山体崩壊に伴う陣場岩屑などによって形成された新期扇状地（相馬ヶ原扇状地）となっている（第3図）。また、遺跡地の北西約1.4kmにある箕輪城以南の榛名白川沿いには6世紀初頭におこった榛名山二ツ岳の噴火に伴う火碎流が狭い扇状地を形成している（白川扇状地）。十文字面・相馬ヶ原扇状地とともに基盤上にはいわゆるローム層が堆積し、その厚さは場所によっては3m以上にもなる。その上には、県内の山麓地で普遍的にみられる淡色黒ボク土が、さらにその上位にAs-Cを含んだ黒色土があり、場所によってはその上位にHr-FAやAs-Bの堆積が認められる。

本遺跡は箕郷町地区のほぼ中央にあって、相馬ヶ原扇状地西端を井野川が開析した緩い舌状台地上に立地する。調査地点は井野川から東へ約240m、川までの比高差は10数メートルである。周辺は基本的に北から南への斜面であるが、調査地付近は舌状台地の西よりに位置するため井野川のある西方へ向かってわずかに傾斜する。標高は調査地の現地表で約217mを測る。周辺一帯の水利は不良で、そのため農耕は現代においても畑作主体である。近代以後一貫して桑畠であったが、太平洋戦争時に一部を芋畠として転用し、以後は桑畠と芋畠が混在していたもようである。昭和40年代以後、この周辺では宅地の増加に伴って耕作地が漸減し、現在では住宅集中区域と耕作地がまだらに分布する景観を呈している。



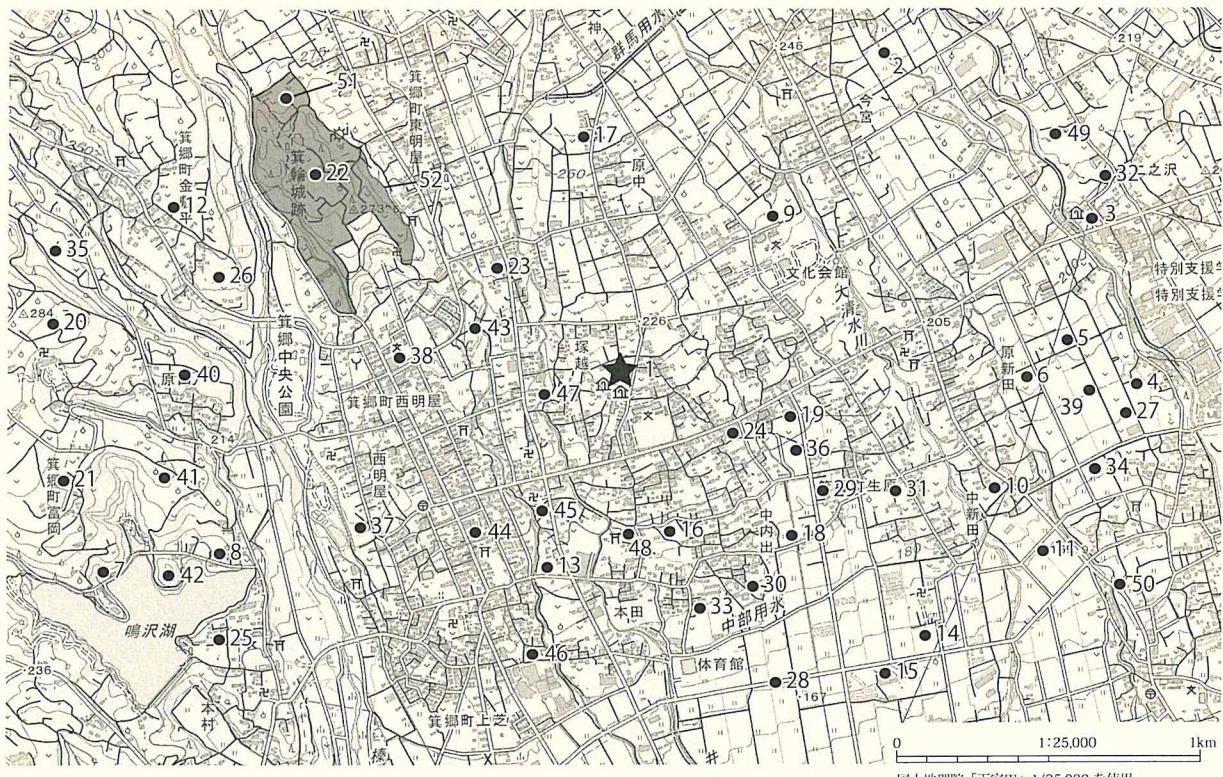
第3図 周辺の地形

## 第2節 歴史的環境

周辺の遺跡は、基本的に扇状地が開析された尾根状の台地上に形成されている。第4図の右半部に分布する遺跡は旧箕郷町の区画整理事業に伴って昭和57年から62年に調査されているが、図の左半や生原地区以北は近年調査事例が増加してはいるものの、未調査の遺跡も多い。

この地域では旧石器時代の遺跡は発見されていない。縄文時代の遺跡は、調査されたものでは善龍寺前遺跡(14)、飯盛遺跡(15)、生原・天神前遺跡(16)、八反畠遺跡(18)があるが、このほかにも地表や調査時に遺物が採集された遺跡が少なくとも20か所認められている。本遺跡でも縄文前期の土器破片が出土している。Hr-FA降下時に形成された白川扇状地範囲を除けば、縄文時代遺跡の密度は決して低くなく、今後調査数に伴って更に増加することも予想される。これに対して弥生時代の遺跡は少なく、遺構が検出された遺跡はない。大清水遺跡(5)、柿木沢遺跡(7)、鴨入遺跡(8)、全徳森遺跡(24)で遺物が出土している程度である。古墳時代前期は、遺跡が少なく飯盛遺跡で甕棺が2基検出されているほかは田島遺跡(6)、佐藤遺跡(28)で遺物が出土している程度である。後期になると遺跡数は一気に増加し、海行A遺跡(10)、海行B遺跡(11)、善龍寺前遺跡、飯盛遺跡、古墳No.61遺跡(27)、薬師遺跡(33)などで集落が形成される。また、前方後円墳の可能性がある椿山古墳(43)をはじめ、京塚古墳(42)、上芝古墳(44)、古墳No.38遺跡(唐沢古墳:49)、古墳No.45遺跡(浅間塚古墳:50)、本田古墳群(48)ら多くの後期~終末期古墳が築造される。矢原塚越遺跡に近い行人塚古墳(47)も古墳時代後期(6世紀末)のL字形石室を持つ方墳である。それ以外の遺跡でも田島遺跡、海行A遺跡、善龍寺前遺跡、飯盛遺跡、原山遺跡(40)、原山向遺跡(41)などで古墳が見つかっている。なお、大規模古墳の集中する保渡田古墳群は、本遺跡の南東約3kmに位置する。

古代になるとそれ以前に比して飛躍的に遺跡数が増加する。海行A・B遺跡、善龍寺前遺跡、飯盛遺跡、



第4図 周辺の遺跡

佐藤遺跡、八反畠遺跡、生原八反畠遺跡（19）、柊木遺跡（29）、堀ノ内遺跡（30）、中新田遺跡（31）、諫訪遺跡（36）などで集落が検出されており、これらの中には古代になって初めて集落が形成された遺跡もある。遺物の出土のみが確認された遺跡はさらに多く、本遺跡でもこの時期の遺物が出土している。

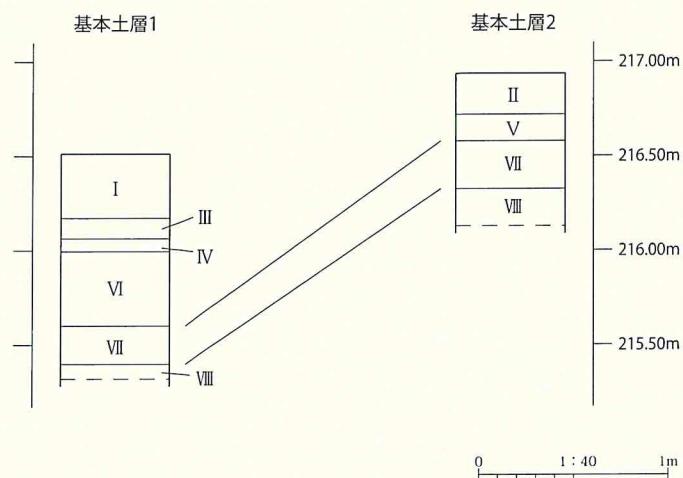
中世以後は戦国期の遺構として、西明屋法峯寺前遺跡（38）で集落が、飯盛遺跡で館跡が見つかっている。また、上野地域にとって重要な戦国末期の本格城郭である箕輪城跡（52）とそれに伴う砦の東明屋新廓遺跡（51）が井野川と榛名白川間の舌状台地上に位置する。

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	主な遺構	参考文献・他
1	矢原塚越遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	溝状遺構	本書
2	東谷遺跡	縄文	散布地	
3	縄文 No.7 遺跡	縄文	散布地	
4	縄文 No.8 遺跡	縄文	散布地	群馬町略報（1983）
5	大清水遺跡	縄文・弥生	散布地	箕郷町『生原・田島・大清水遺跡』（1982）
6	田島遺跡	縄文・弥生・古墳・中世	散布地・古墳	箕郷町『生原・田島・大清水遺跡』（1982）
7	柿木沢遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	散布地	
8	鴨入遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	散布地	
9	峯原遺跡	縄文・古墳	散布地	
10	海行 A 遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	散布地・集落・古墳	箕郷町『海行 A・B 遺跡』（1988）
11	海行 B 遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	散布地・集落	箕郷町『海行 A・B 遺跡』（1988）
12	鉢井廻り遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	散布地	
13	茶園場遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	散布地	H5・8町調査
14	善龍寺前遺跡	縄文・古墳・平安・中世	散布地・集落・古墳	箕郷町『生原・善龍寺前遺跡』（1986）
15	飯盛遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	集落・城館・古墳	箕郷町『海行 A・B 遺跡』（1988）
16	生原・天神前遺跡	縄文・古墳・平安	集落・古墳	市教委 256集（2009）
17	原中遺跡	縄文・奈良・平安・中世	散布地	
18	八反畠遺跡	縄文・奈良・平安・中世	散布地・集落	箕郷町『海行 A・B 遺跡』（1988）
19	生原八反畠遺跡	縄文・平安	集落	市教委 217集（2007）
20	西並木遺跡	縄文・平安・中世・近世	散布地	
21	西ノ原遺跡	縄文・平安・中世・近世	散布地	H6町試掘
22	城山遺跡	縄文・平安・中世・近世	散布地	
23	横道下遺跡	縄文・平安・中世・近世	散布地	H5町調査
24	全徳森遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	散布地・集落・墓	市教委 236集（2009）
25	下藏遺跡	弥生・平安	散布地	
26	街道東遺跡	古墳	散布地・古墳	
27	古墳 No.61 遺跡	古墳	散布地・集落	群馬町「保渡田 II 遺跡・中林遺跡」（1982）
28	佐藤遺跡	古墳・平安	散布地・集落	
29	柊木遺跡	奈良・平安	集落	市教委 245集（2009）
30	堀之内遺跡	奈良・平安	散布地・集落	箕郷町『海行 A・B 遺跡』（1988）
31	中新田遺跡	奈良・平安	散布地・集落	箕郷町『海行 A・B 遺跡』（1988）
32	奈良平安 No.18 遺跡	奈良・平安	散布地	
33	薬師遺跡	古墳・奈良・平安	散布地	箕郷町『海行 A・B 遺跡』（1988）
34	西芝遺跡	古墳・平安	集落	群馬町「中里遺跡群西芝・中道・押し出し・薬師遺跡・毘沙門遺跡（1）』（1991）
35	東沢遺跡	平安	散布地	
36	諫訪遺跡	平安	散布地・集落	
37	上ノ宿遺跡	平安・中世	散布地	
38	西明屋法峯寺前遺跡	中世	集落	H27市試掘
39	鎌倉室町 No.8 遺跡	中世	散布地	群馬町「保渡田 II 遺跡・中林遺跡」（1982）
40	原山遺跡	縄文・古墳	古墳	
41	原山向遺跡	縄文・古墳・平安	古墳	
42	京塚古墳	古墳	古墳（円墳？）	H9町調査
43	椿山古墳	古墳	古墳（前方後円墳）	
44	上芝古墳	古墳	古墳（帆立貝形古墳）	
45	天宮古墳	古墳	古墳（円墳）	
46	四ツ谷古墳	古墳	古墳	
47	行人塚古墳	古墳	古墳（方墳）	
48	本田古墳群	古墳	古墳群（円墳）	古墳 2基残存
49	古墳 No.38 遺跡	古墳	古墳（唐沢古墳）	
50	古墳 No.45 遺跡	古墳	古墳（浅間塚古墳）	
51	東明屋新廓遺跡	中世	城館	H28市試掘
52	箕輪城跡	中世	城館	市教委 229集（2008）ほか

## 第IV章 基本層序

本遺跡では、I～VII層の基本土層を確認した。I層は現代の盛土、II～III層は盛土前の現代耕作土である。IV層は近代以前と思われる旧耕作土で、多くの搅乱（芋穴）は本層を掘り込んでいる。V～VII層は灰黄褐色またはにぶい黄橙色で比較的固く締まつたわゆるハードローム層である。本来はこの上位に淡色黒ボク土、黒ボクとロームの漸移層、ソフトローム層などが堆積していたはずであるが、本遺跡では削平されていると考えられる。調査にあたってはV・VI層上面を遺構確認面とした。V～VII層の差異は色調と礫含有の有無であり、基本的な土質は同一である。これらの層にはVII層のAs-YPが少量混入している。本調査ではAs-YP以下は掘削しなかったが、調査区北部で検出された倒木痕の中からは10～20cm大の礫が多数出土していることから、ローム層の堆積が比較的薄く扇状地の基盤層まで数十センチ～1m程度である可能性もある。



### 基本土層

- I層 褐灰色(10YR4/1) 砂質シルトと粘質シルトの混合層 ロームブロック多量、黒色粘土ブロック多量、白色軽石粒少量。盛土。
- II層 黒褐色(10YR3/1) 砂質シルト 小礫少量。表土。
- III層 暗褐色(10YR3/3) 砂質シルト ロームブロックφ5～30mm15%、As-YP粒2%、白色軽石粒5%、小礫少量。旧耕作土。
- IV層 黒褐色(10YR3/2) 砂質シルト ロームブロックφ2～10mm少量、白色軽石粒少量。旧々耕作土。
- V層 灰黄褐色(10YR6/2) 粘質シルト 締まり強。As-YP粒3%。ハードローム。
- VI層 灰黄褐色(10YR6/2) 粘質シルト 締まり強。As-YP粒3%。ハードローム。
- VII層 にぶい黄橙色(10YR6/4) 粘質シルト 締まり強。As-YP粒5%、小礫2%。ハードローム。
- VIII層 明黄褐色(10YR6/6) 軽石層 As-YP純層。

第5図 基本土層柱状図